

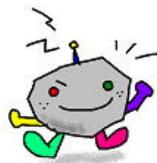
【国立大学法人 岩手大学】

ISO14001と産学官民連携を活用した「π字型」環境人材育成プログラム

【事業目的・内容】

◆「学びの銀河」プロジェクトの実績を踏まえて、4つの取組により基礎的環境力(横軸)に加えて、学部の専門性(縦軸1)と「環境マネジメント」の実践的環境力(縦軸2)の2つの縦軸を備えた「π字型」環境人材を育成するプログラムを開発する。

- [取組1] 全学共通教育における環境教育の充実
- [取組2] 環境マネジメント実務の実習プログラム開発
- [取組3] 学生による地域のグリーン化支援
- [取組4] 大学による「環境管理実務士」の資格認定



【事業イメージ図】

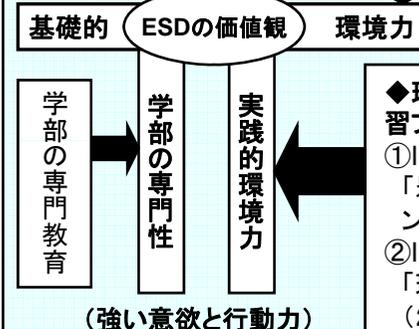
[取組1]



◆共通教育における環境教育の充実

- ①「基礎ゼミナール」環境への意識付け
- ②学外と連携したESD科目
「持続可能なコミュニティーづくり実践学」
「地元企業に学ぶESD」
- ③環境教育科目の教材作成

「π字型」環境人材



[取組2]

◆環境マネジメント実務の実習プログラム開発

- ①ISO14001の授業科目
「岩手大学の環境マネジメント」(1年後期2単位)
- ②ISO14001学内監査実務
「環境マネジメント実習」
(2年前期2単位)
- ③地元中小企業の経営グリーン化支援科目
「環境マネジメント実践演習」
(* 学生が中小企業の「環境報告書」作成に協力)
(2年後期2単位)

[取組3]

◆学生による地域のグリーン化支援

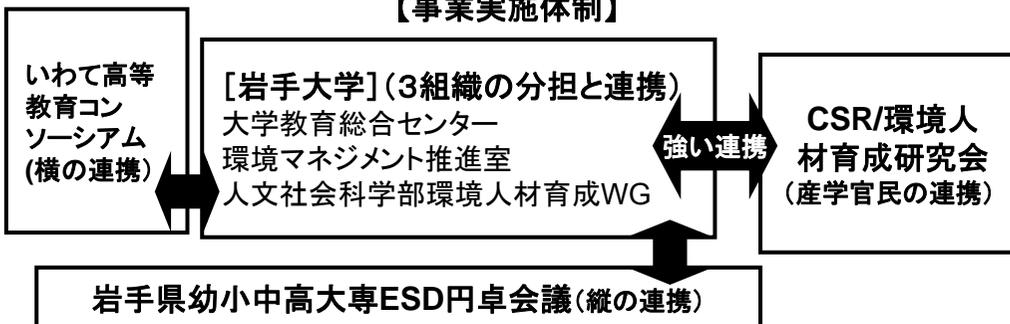
- ①いわて高等教育コンソーシアム
- ②幼小中高大専ESD円卓会議
- ③CSR/環境人材育成研究会
- ④国際教育交流協議会
* 学外団体と連携して、インターンシップ・ボランティアの推進

[取組4]

◆大学による「環境管理実務士」の資格認定

* [取組1][取組2][取組3]の要件を満たした学生に付与

【事業実施体制】



【事業の新規性(アピールポイント)】

- ◆すべての教養教育にESDを織り込む「学びの銀河」プロジェクトを継承
- ◆学長を先頭に共通教育を中心とした全学的な取組
- ◆地元中小企業と連携し、学生が「環境マネジメント」スキルを社会の現場で実践する「環境マネジメント実践演習」を開講
- ◆大学による「環境管理実務士」の資格認定

【事業実施スケジュール】



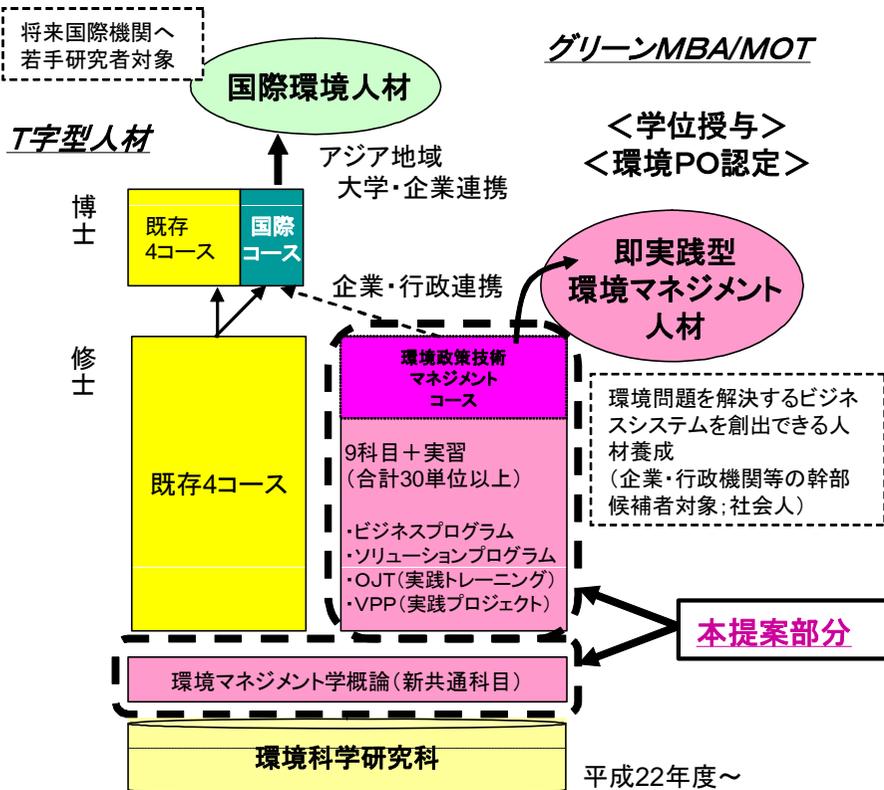
【東北大学】

環境政策技術マネジメントコース創設プログラム

事業目的・内容

鳥瞰的視座で環境分野の企業や行政機関が抱える問題を解決するビジネスシステムを創出し、実現に導く環境マネジメントスキルを有する即実践型環境マネジメント人材を養成する環境政策技術マネジメントコース(修士)を創設する。本研究科では平成21年度まで5年間実施予定の環境マネジメント人材教育の実績を活かし、1年目、2年目に、これを発展させた新カリキュラムを構築し、環境マネジメントにかかわる教科書を作成する。また、2年目から入学者に対して実践力を総合したスキルの養成を開始する。3年目に、所定の単位を取得し最終試験に合格した者に対して学位(修士)を授与する。特に、高度な環境マネジメントスキルを有する者に対して環境PO(プログラムオフィサー)認定を授与する。また、本カリキュラムによる教育効果を大学内外の専門家による委員会により評価を行い、修士のフォローアップの仕組みを整備する。

事業イメージ・実施体制



事業の新規性 (アピールポイント)

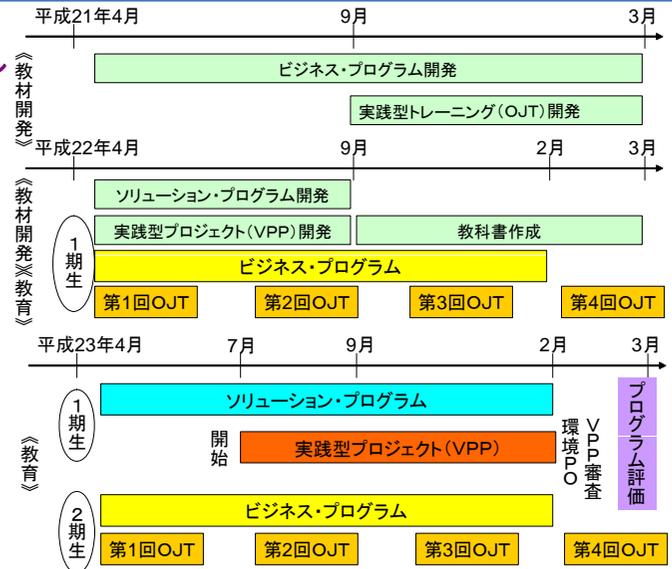
本事業の即実践型環境マネジメント人材養成を目的とした学位を授与する大学院コースは世界初であり、また、本事業で新規開発するソリューション創出論、ナチュラル・テクノロジー学、環境マネジメント学概論、及びこれらの教材・教科書は他大学に存在しない、独自のものであり、既に5年間の実績に裏付けられる質の高いコンテンツである。

事業成果

ソリューション創出論、ナチュラル・テクノロジー学、環境マネジメント学概論及びソリューション創出論を主体とした環境マネジメントにかかわる教科書を作成する。3年目の最後には修了生を輩出する。

実施

スケジュール



【上智大学】

アジア大学間ネットワークを活用した産学協同の環境人材育成プログラム

＜事業目的・内容＞

地球環境学研究科等の4研究科の学内大学院網と、大学の持つアジアの学术交流大学網（ソフィア・エコ・アジアネットワーク）および国内の複数の企業との間（連携企業・実践ネットワーク）で産学協同の教育提携を図る。



現行の文理融合の横断的教育を新たな内外の新ネットワーク教育で補強し、現在進行中の学部の全学共通教育の環境リテラシー教育を土台に、国際性と実務性を兼ね備えた環境人材、アジアに強いエコ・エキスパートの養成を目指す。

＜事業実施体制＞

学术交流担当副学長を中心とするプログラム開発・実証委員会を組織。同委を学内横断的なコア教員群が主導。同委には連携企業もオブザーバーで参加

＜事業の新規性(アピールポイント)＞

国内外のネットワークを有機的に結合する点。アジアでの海外授業に、国内連携企業の現地でのインターン等も組み込み、国際性と実務性をより緊密に学べるようにする。

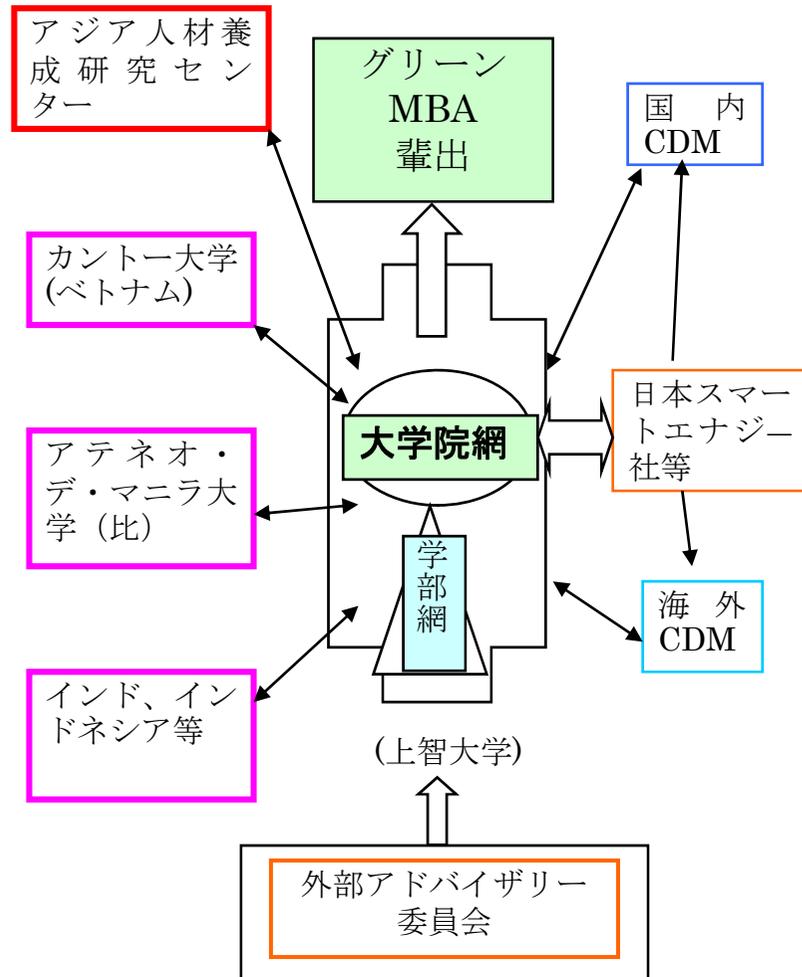
＜事業成果・実施スケジュール＞

開発、実施、検証の3ヵ年計画。順調に進めば初年度から試行実施も。各年度の成果を外部アドバイザー委員会が客観的に検証。

事業イメージ図

ソフィア・エコ・アジア
ネットワーク

連携企業
実践ネットワーク

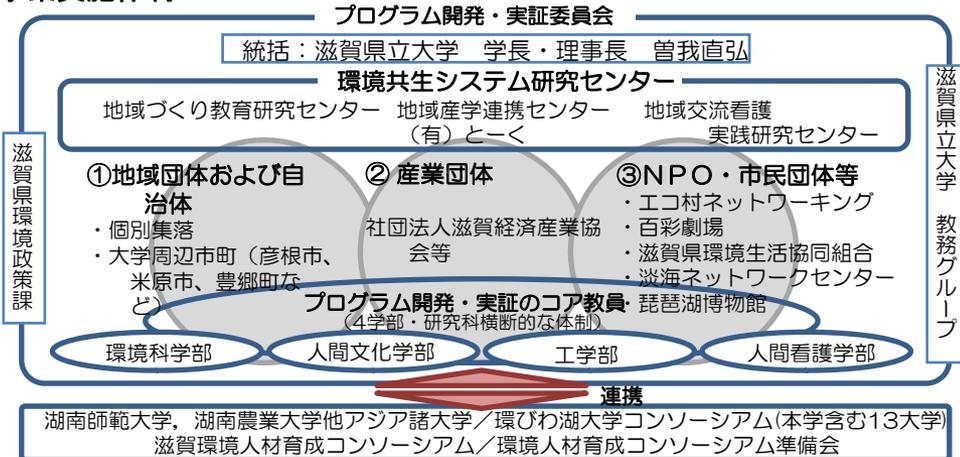


地域との連携による 環境“三方よし”人材 育成プログラムの開発

■事業目的・内容

本学は、琵琶湖とその集水域で形成された環境県の大学として、開学以来「キャンパスは琵琶湖、テキストは人間」をモットーに、「地域に根ざし、地域に学び、地域に貢献する大学」として、地域と連携した環境人材の育成を実践してきた。本提案はこれらの実績を踏まえて、水環境と共生する持続可能社会をテーマとした「水よし、地域よし、未来よし」の「環境“三方よし”人材」の育成を図り、全国やアジアでの水環境を中心とした地域環境改善、地域活力創造を担う環境人材育成プログラムの開発を行う。

■事業実施体制



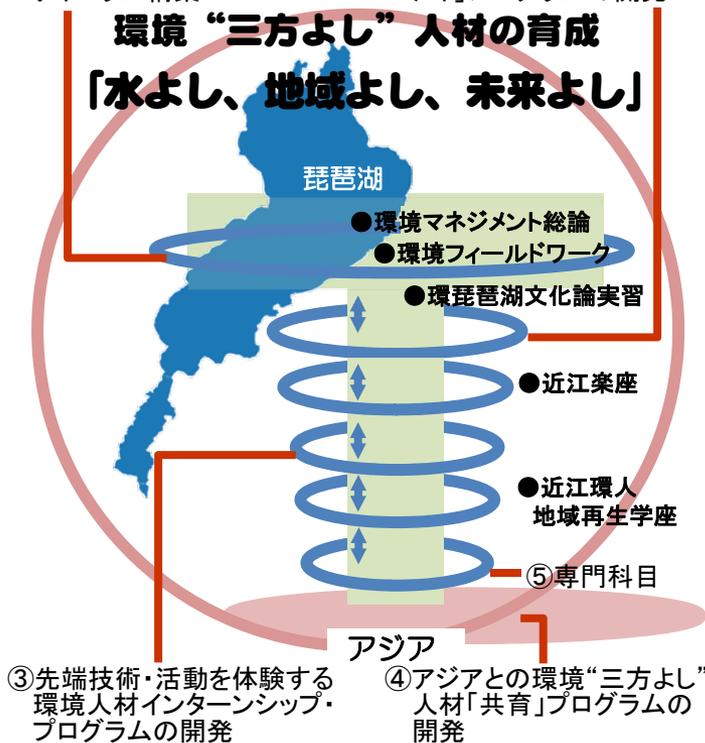
■事業イメージ

●本学の立地特性と豊富な地域連携等実績
「キャンパスは琵琶湖、テキストは人間」
地域に根ざし、地域に学び、地域に貢献する大学

●重点的に育成を目指す環境人材の素養は
・ネットワーク力
「**現場力**」・柔軟な問題解決能力
・プロジェクト推進能力 + 専門性

- ①アジアに展開する「環境“三方よし”人材」育成の基幹カリキュラム構築
- ②琵琶湖集水域の水環境と生活の関わりを体験する「集落ステイ」プログラムの開発

環境“三方よし”人材の育成 「水よし、地域よし、未来よし」



■事業の新規性

アジアで求められる環境人材の素養は「現場力」。本学の琵琶湖とその集水域で形成された環境県の大学という、環境を考える上での先進的な立地で育まれた環境人材育成及び地域連携実績を全国やアジアへ展開するモデルとして開発。

■事業成果

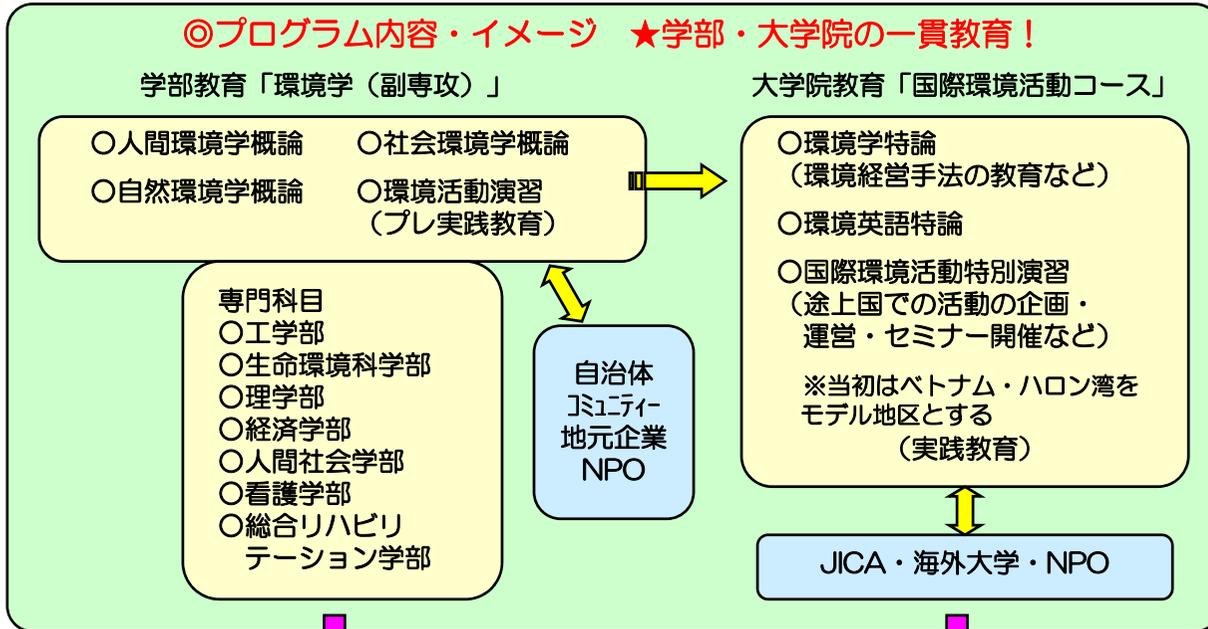
アジアに展開する「環境“三方よし”人材」育成の基幹カリキュラム、琵琶湖集水域の水環境と生活の関わりを体験する「集落ステイ」プログラム、先端技術・活動を体験する環境人材インターンシップ・プログラム、アジアとの環境“三方よし”人材「共育」プログラムにより、アジアへ展開する「現場力」養成プログラムを開発。

国際協調力を持つ環境人材育成のための教育プログラム開発事業

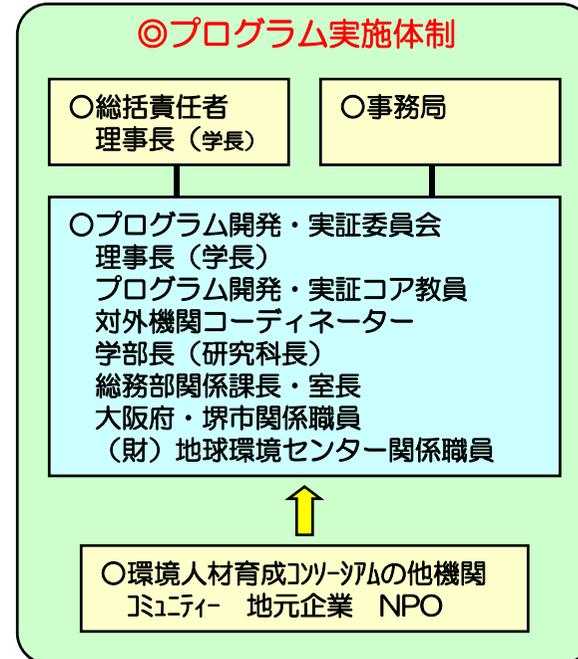
～環境人材育成に向けた学部・大学院の一貫教育～



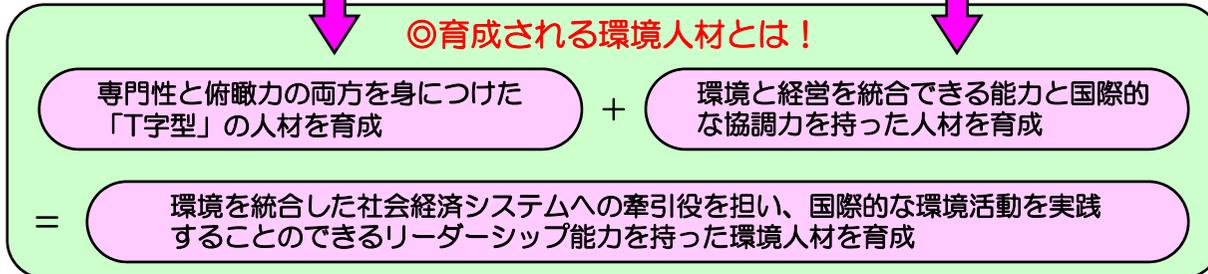
◎プログラム内容・イメージ ★学部・大学院の一貫教育！



◎プログラム実施体制



◎育成される環境人材とは！



◎プログラム実施スケジュール

	2009年度	2010年度	2011年度
学部教育	○学内・他機関との調整 ○講義科目準備	○講義科目開講 ○演習科目準備	○演習科目開講
大学院教育	○学内・他機関との調整 ○講義科目準備	○講義科目開講 ○演習科目準備	○演習科目開講（当初ベトナム）○他地域への展開
共通	○プログラム開発・実証委員会設置	○報告会 ○検証・改善	○パッケージ化・マニュアル化 ○プログラムへの情報提供